

岡山市市民協働推進モデル事業 評価表/公開用

終了編

事業名	「しんどい先生」支援プロジェクト	団体名	子育て・教育なんでも相談ネットワーク
		担当部署名	岡山市教育委員会 指導課
予算総額	271,000円	補助総額	163,888円
		記入日	3月30日

1	目標の達成状況	「事業実施前の岡山市の状況」 文章、数値、図等により事業実施前の岡山市の状況を表してください。岡山市(担当課)やその他の利害関係者との関係性も記載してください。	「事業実施後の岡山市の状況(成果)」 文章、数値、図等により事業実施後の岡山市の状況を表してください。岡山市(担当課)やその他の利害関係者との関係性の变化や協力状況なども記載してください。
		<p>学力向上、不登校児童数の減少、問題行動の克服など教育現場にかけられた期待は大変大きいですが、先生たちの悩みや行き詰まり感は予想をはるかに超えたものがある。現実からの逃避や心を病むなど、追い詰められ自己否定する先生たちも存在している。また、教師や保護者たちとの関係をうまくコントロールできずに思い悩んでいる先生たちも存在している。超多忙化が進む教育現場で、多様な生徒たちや困難な家庭への対応など過酷な環境で多くの先生たちは毎日悪戦苦闘している。行政により公的な相談機関の設置もされて体制は整備されてはいるが、敷居が高くなかなか相談をためらう傾向にある。</p> <p>○教科指導・クラス経営など、悩みの相談活動を通して「豊かな学び」を実現できるよう支援していく</p> <p>○既存の「相談機関など」での相談へ脚を運べない先生たちへの支援を特別に強化したい</p>	<p>このような状況の中、いつでも気軽にそして秘密裏に相談できる機関をめざし電話相談を開設した。</p> <p>○公的機関や同僚にはなかなか相談しづらい現実がある</p> <p>○しがらみのない民間機関であり元教師の立場を活用して</p> <p>○夜間の電話相談活動も実施する</p> <p>しかし、当初の予想とは大きく異なり、「周知・広報」の弱点や相談ネットワークの「信頼、安心」が担保されない状況で、継続相談以外の新たな電話相談は皆無状態。担当部署とのとりくみ方法を再考することで、「気軽に参加できる座談会・おしゃべり会」を開き、気軽にとりくむことで先生たちのストレスや悩みの軽減をはかる方向へ。</p> <p>○1月から月2回のペースで「ネットワーク☆カフェ」を開設</p> <p>○6回の開催で毎回複数の先生たちの参加があり、想像を超える現場実態を耳にし、ベテラン教師も交えて「相談活動」に力を尽くしてきた</p> <p>☆達成に向けての到達点を下げることでどうにか</p> <p>○先生たちの悩みの一部を吐露してもらうことはできたし寄り添うことはできた</p> <p>○「聴いてもらえるだけで元気が出た」などの意見から、</p> <p>○相談後、参加者が中心となり、学年で組織的に保護者からのクレームに対処するなどの成果もうまれている</p> <p>○当初の目標達成には程遠いが、想像以上の大きな壁を登り始めた感がする</p>

2	チェックリスト	評価項目	自己評価			改善案(想定以下の場合)
			想定以上	想定通り	想定以下	
	1	事業の定性目標は予定通り達成できましたか?			○	協働事業の立案(目標)そのものの再考が要求される
	2	事業の定量目標は予定通り達成できましたか?			○	〃
	3	事業はスケジュール通り進行しましたか?			○	〃
	4	すべての工程を丁寧に進行できましたか?			○	〃
	5	当初の想定通りに相互の強みが発揮されましたか?		○		
	6	当初の想定通りに役割分担が行われましたか?			○	〃
	7	当初の想定通りに利害関係者を巻き込みましたか?			○	〃
	8	団体と担当部署の情報共有は積極的に図られましたか?			○	〃
	9	決算は概ね予算通りの収支となりましたか?		○		
	10	協働による相乗効果が発揮されましたか?			○	〃